

【第2回研究会】第2部 勉強会

（開催概要）

開催時期：平成27年11月24日（火） 14:30～16:00

開催場所：北部会館3階

参加対象：研究会メンバー、オブザーバー（観光庁、沖縄総合事務局、OCVB）

内 容：①「広域 DMO の事業の進め方について」

講師：大社充氏（観光地域づくり PF 推進機構 代表理事）

②会場との意見交換

開催方法：講演会及び意見交換会

（講演概要）

「広域 DMO の事業の進め方について」

■発地主導型から地域主導型観光への転換

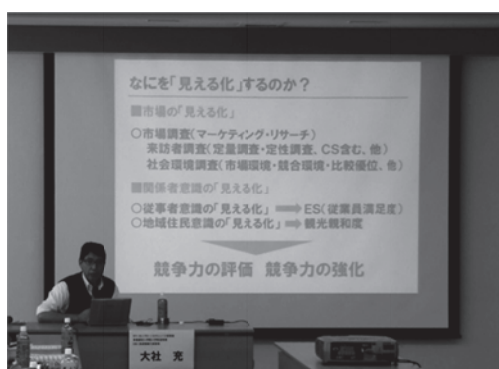


これまで旅行社に送客を依存していた。

マーケットサイドが手配をして、ツアーを作り、沖縄に行こうという流れであった。

近年、マーケットの志向が変わり、個人旅行など地域が自ら専門性を持ってやる必要が出てきている。そのためのノウハウを備えなければならない。

■観光の「見える化」について



沖縄全体でマーケットはどれだけあるのか、北部はその何%なのか？

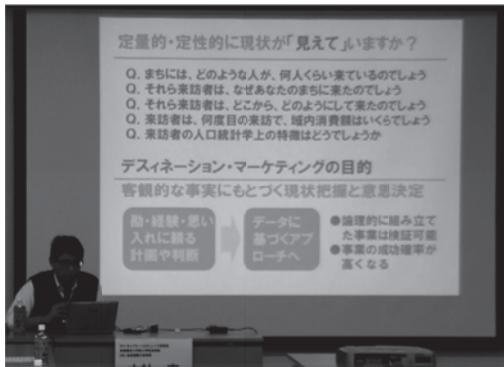
様々な要因の中で、海外旅行に行ける人の数が増えている。

市場が変化すれば対応策も変化させる。

適切な市場に適切な方法で、適切な情報を提供していく必要がある。

競争力の評価、競争力の強化が必要。

■「見える化」調査をマーケティングに活用する。



①経済の見える化

②来訪者の見える化

③推進体制の見える化

DMO をだれが担うのか、どのような体制でやるのかにおいて重要。財政が厳しい中、市町村単位の観光協会の自立に対する圧力がかかっており、効果的な仕組みが必要である。

(議事概要)

【意見交換の概要】 研究会メンバーより 抜粋・要約

- ・ (質問) 観光商圈の広さは、どれぐらいで考えるのがよいか？
 - (回答) 基本的にはデータを集め、それに基づいて議論した方がよい。
 - (回答) 北部エリアでは大学を活かしてほしい。地域の研究をしてもらいDMOの意思決定に役立ててほしい。
- ・ (質問) 地域のマーケティング調査をしていきたい。
 - (回答) 連携して調査したらよい。調査の重複を防ぐために、みんなで情報を共有した方がよい。イベント開催等の経済効果分析等もした方がよい。
 - (回答) 離島の場合はさらに細かくデータをとることで手の打ち方が見えてくる。
 - (回答) 各市町村が持っているデータを共有し、また、広域でマーケティング調査をすべきである。
 - 全国的に沖縄県は観光のデータ量が多いが、それが施策に反映されていない。
- ・ (質問) 経済の見える化は、従業員の満足度も含めて Destination Marketing だと感じた。
 - (回答) 極めて重要なことである。お客さんが来ても地元の人が幸せでなければやる意味が無い。

※詳細は資料編に掲載

【第3回研究会】

（開催概要）

実施時期： 平成 28 年 2 月 18 日（金） 11:00～13:00

実施場所： 北部会館3階

実施対象： 研究会メンバー、オブザーバー（沖縄総合事務局）

内 容： 議題

- ①平成 27 年度の連携体制について
- ②やんばる観光市町村等連絡協議会と各エリア、観光協会の関係
- ③平成 28 年度の実証内容について
- ④連携体制の収支イメージについて
- ⑤平成 29 年度以降の体制について

開催方法： 事務局説明及び意見交換

（開催状況）



開催写真



開催写真

（議事概要）

- やんばる観光市町村等連絡協議会の設置は必要である。
- DMO に向けて研究を深めていく。
- 4 月以降（次年度事業の開始前）も研究会での議論を続けて行く。

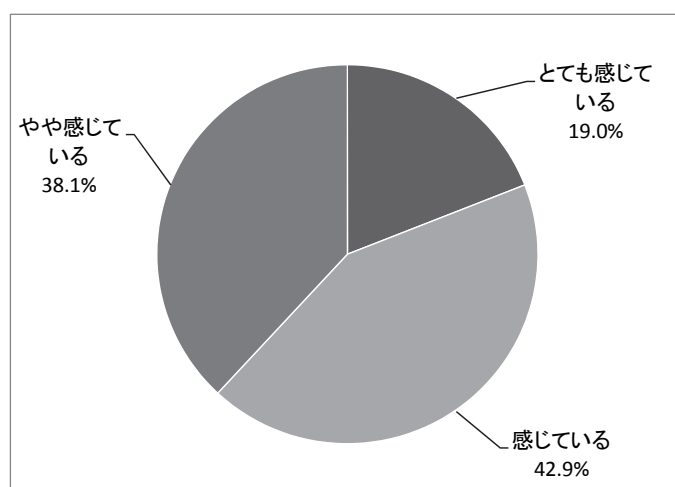
- ・ エリア別の連携プロジェクトは様々な協力会社と連携して進めているなかで、4～6 月が空白になると動きが止まり商品造成に支障がでる。進められる組織が先に確立していれば他の予算等も活用して動けるのではないかな？
- ・ 各観光協会ではマンパワーの部分で弱い現状がある。組織に役割を与えて行政サイドから後押しとして予算要求していくこともできるのではないかな？

- OCVBもプロモーション予算があり、組織体をしっかりしてその予算も重複する形ではなく連携する形で活用できるようにした方がよい。
- 第2回研究会で、DMOを作っていこうということは研究会の総意ととらえている。平成28年度に勉強会は予定されているが、検証の部分で触れられていない。平成29年度以降もDMOが見えないが、文言として入れるべきでは。
- DMOを作る要件として「協議会」が記載されている。DMOを目指そうという意見はあるがもう少し議論を深めながらということで勉強会として入れている。
- DMOは自治体の財源の問題をはじめ、超えるべきハードルがあり、目指すかどうかも含めて勉強会をしていく。研究を深めながら急ぐべき時は急ぐ。
- DMOは12市町村全体では研究を進めながらだが、エリア別には、先にDMOに進むエリアがあれば進むことも考えられる。
- 研究会については、了解が得られれば4月以降も議論を続けたい。

（参加者アンケート調査の概要）

研究会の開催時にアンケート調査用紙を配布し、参加者よりアンケートを回収した。

問1 事業実施によりやんばる観光の連携が進んだと感じますか？（有効回答 21）

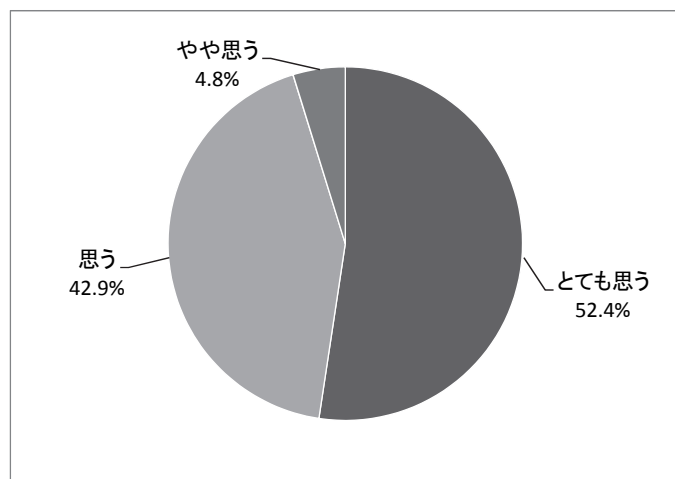


【コメント】(抜粋)

- 各エリアでの事業が進みつつあり他の商品開発も含めて連携が必要であります。
- エリア内での事業が実施できたことによる。
- 実際にモンベルのツアー（モニター）等が伊江島でも開催がある。
- 北部12市町村は職員数、観光協会においても人的要因が足りていない状況で業務を行っている。この事業でやんばるの連携が進み観光行政がやりやすくなった。また隣の市町村がそれぞれ頑張っているものが見えてきてとても刺激になった。県の約半分以上はやんばるという位置付けでこれからの事業の可能性は底知れないものがあると思った。
- エリア分けをすることにより目的が明確になった。今後の運営体制（エリア毎）継続できる組織などの課題解決と行政サイドとの進め方に考え方の差がある。
- 連携事業を確定していく中で事務面（組織）間の連携が取りやすくなった。

- お客様を他地域へ紹介できる
- モニターツアーの実施や旅行者の詳細なデーターなどの情報を得られた。
- 許田の道の駅ターミナルで実施している事業は連携を感じます。エリア毎の連携事業も観光産業になりうる良いものだと感じます。それぞれの色がでている。やんばるドライブマップは観光客に役立てていると思われる、かつ分かりやすい。
- いいなエリアでは3村の連携した事業が現在3つありその度に会議や懇親を深めている所である。その成功としていいな運天港まつりが3回目を終え次年度も継続的に実施することからも、3村連携きわめて必要であり今後も継続していきたい。
- 各市町村の長所と短所を活かしカバーし合える点。今年度はエリア毎で活動を行ったことで方向性や可能性がみえてきた。
- 各観光協会連携がうまくいっている。やんばるへの誘客へつながっていると思う。
- 少なくとも、各エリアで事業を進めていく中で連携は進んでいると感じます。但し、会合等の参加が少ない組織があるのは注意が必要。
- 普段はなかなか連携がとれないし、他市町村の良い場所が分かる事により他市町村への案内もしやすくなりより身近な存在になるので連携していると非常に感じた。
- モニターツアーではなく実際のツアーが確立してはじめて連携が進んだと思う（将来につながることは出来たと思う）
- 金武町・宜野座村・恩納村と担当レベル間の連携が格段に向上したと実感する。
- 本事業により、各市町村の担当者、観光協会その他との交流も図られ、連携した事業も行われている。また、本事業以外での連携も図られている。
- 事業をとおして、情報の共有の幅が広がった事や一緒に取り組むことで人の繋がりが出来た事がよい。

問2 各エリアの連携プロジェクトについて、今後継続したいと思いますか？（有効回答 21）

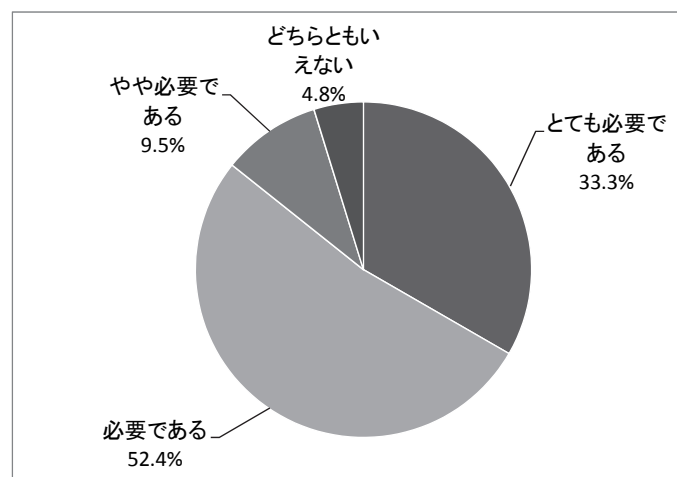


【コメント】(抜粋)

- 継続しないと各エリアの連携が弱まると思う。
- 観光振興に資すると考えるから
- 離島ならではの不足な点がありすぎる。

- それぞれのエリアの特色を生かしながらやんばるは1つというイメージは今後のやんばるファンを増やすきっかけになると思った。各エリアで連携し又エリアとエリアが連携することで魅力あるやんばるを県内外へ発信することができとても合理的な事業だと思う。
- 目的が明確になったのでターゲットや、マーケットも見えてきた。継続することにより地域での連携が更に進み産業につながると思うから。
- その為の組織など組織のあり方の法制度的な整備の為の準備期間として1〜2年集中していく必要がある。
- エリアで集まる機会を増やすことにより情報共有など連携がとれる。
- 情報収集できるので是非継続して欲しい。
- エリア連携のメリットをそれぞれ感じている、12市町村は広範囲すぎるのでまずはエリアで動き、課題をつぶしていく。そこで観光商品を開発し販売まで持っていく。
- 3村をまとめる事務局をどうするのか課題。
- 今回実際に招待ツアーや取組み、勉強会をしてきた中で課題であったり、やんばるを盛り上げるためには連携が必要だと感じ、これから更なる議論や組織を固めることをしないとこれまでやってきたことが大無しになってしまうのではないかと。これを機会に県やOCVB、美ら海財団とも繋がりができてきたので継続が必要。
- 本部半島・伊江島エリア「アウトドアツーリズム」を推進していきたい。
- 利用者にとって必要。但し主体がないので、DMO等設立していくべき
- 事務局（窓口）体制の確立→人材・財源の確保
- 他市町村と連携をとることによりお互いの良い所悪い所が分かってくるのでお互いになる。連携をとる事により、情報発信力も高まり相乗効果も高まる。
- 3町村の施設を深く知れば知るほどスポーツツーリズムの可能性と実現が高いと感じた。
- 連携を行うことで、その地域で行われている事業が分かり、誘客の参考となるから。
- 良い流れで来ているので、継続していく事でより良い関係性になり、事業の幅が広がる。課題は、事務局をどうするか？

問3 今回の研究会の議題となった「やんばる観光市町村等連絡会議」の設置の必要性について



【コメント】(抜粋)

- 行政、観光協会ともに情報の共有は必要である。
- 情報交換は必要である。
- 個の集まりより大きな団体が国県へのアプローチが大きい。
- 観光での税収は沖縄の産業をほぼ示していると思うから総合的な経済効果をもたらしている。そこで「やんばる観光市町村等連携会議」の設置は必要不可欠だと思う。
- 連絡会議②より一歩進めて受け入れ組織の確定をしていただきたい、どこまで出来る組織なのかが現時点では不明なので回答 2 つになります。
- 北部一円の市町村出資の広域的な組織を立ち上げる必要がある。例えば（一部事務組織、北部森林組合的な組織）
- DMO の言葉を含めプロモーション、マーケティングを進める必要がある。広域マーケティングを行って欲しい。
- 観光やんばるを発展していく中で情報交換等できるので設置は必要だと思います。
- 1 行政でやれることはしれてます。広域的に動き北部全体を盛り上げ観光客誘客につながる事を目的とする連絡会設置は必要。
- 取りまとめも今後もしていき、いろんな角度からもアドバイスを頂きたい。
- 各市町村の連携及び意見交換を行うのが重要だと考える。
- コンセンサスを作っていくのは大事だが事業を継続していく主体（組織、人材）が必要で連絡会議の先に DMO 等が必要かと。
- 定期的に連携をとるには必要。まとめる事務局がないと継続は難しいと思う。
- エリアごとには小さくても必要である。事務局体制は観光協会で担当してサポート支援する。北部広域・ビューローが関わったほうがよい。その方がエリアにノウハウが集まるから。
- 北部広域全体ではなく、エリア的な連絡会議ででもよいのではないかな？

【第2回協議会】

（開催概要）

開催時期:平成 28 年2月 29 日(月) 13:30～15:00

開催場所:北部会館3階

参加対象:協議会メンバー(副市町村長)

内 容: 議題

- ①平成 27 年度の連携体制について
- ②やんばる観光市町村等連絡協議会と各エリア、観光協会の関係
- ③平成 28 年度の実証内容について
- ④連携体制の収支イメージについて
- ⑤平成 29 年度以降の体制について

開催方法: 事務局説明及び意見交換

（開催状況）



開催写真



開催写真

（議事概要）

- やんばる観光市町村連絡協議会の創設を了解
- 平成 29 年度以降の財源をどう確保していくかが課題
- 今後はエリアをまたいでの連携も柔軟に検討していく

- ・ 現在は連携プロジェクトチームとしてエリアを括っているが、今後はエリアをまたいでの連携も柔軟に検討していく。
- ・ やんばる観光市町村連絡協議会を創設するということだが、今回の協議会で了解を得たということによいか。⇒異議なし。
- ・ 平成 29 年度以降の財源をどう確保していくかが課題の一つとなってくる。

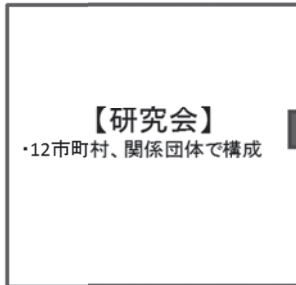
(平成 27 年度のアウトプット)

平成27年度連携体制アウトプット(成果・目標)

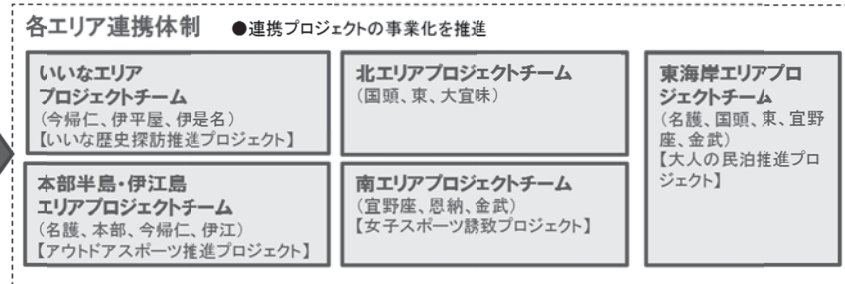
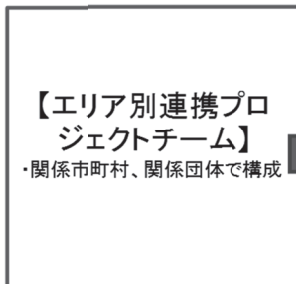
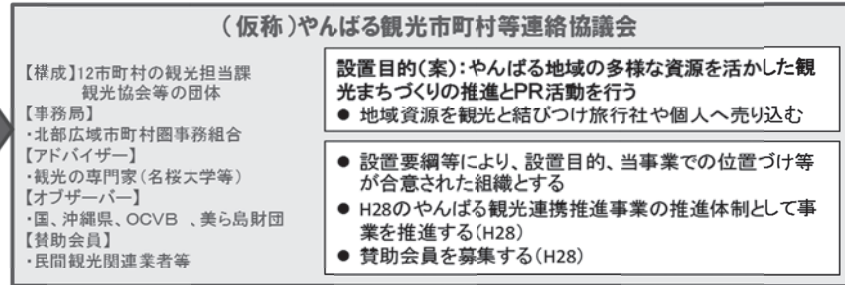
【第3回研究会における 確認事項】

- (仮称)やんばる観光市町村等連絡協議会を創設。事務局を北部広域市町村圏事務組合に置く。(協議会で承認)。
- 構成メンバーは12市町村観光行政と観光協会等の団体とする。

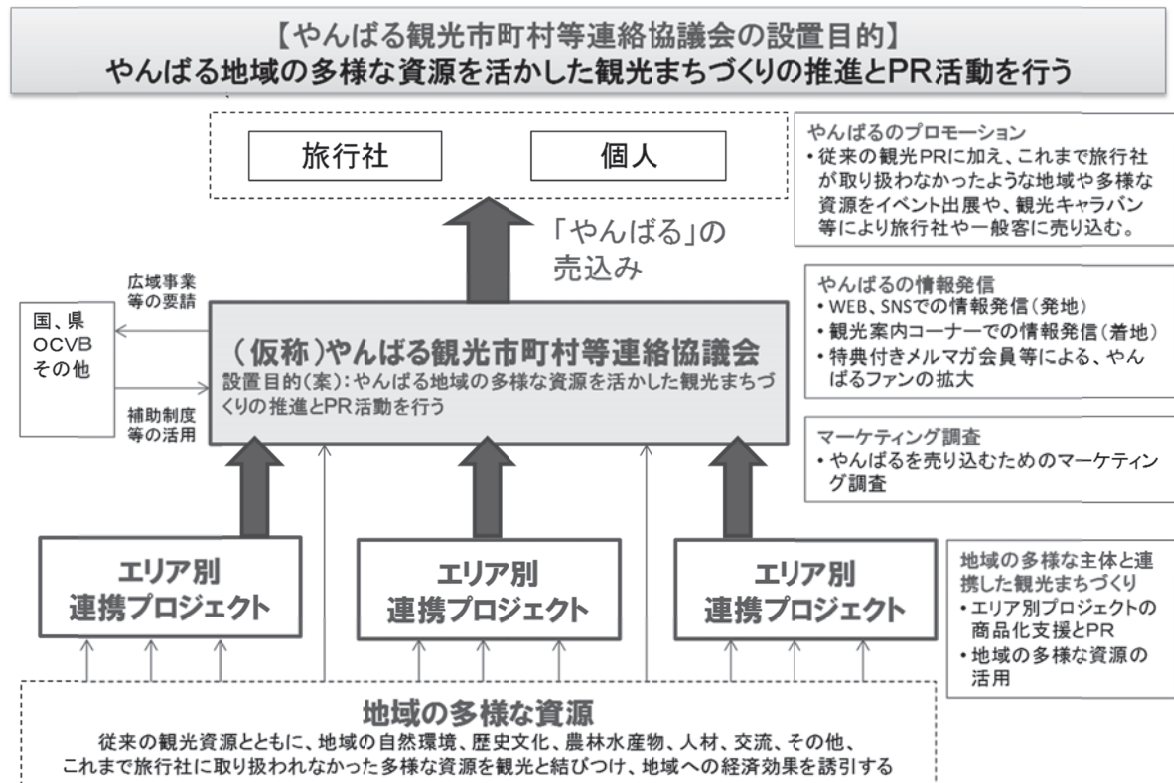
【現在の体制】



【連携体制のアウトプット】



■ (仮称)やんばる観光市町村等連絡協議会の機能



■ やんばる観光市町村等連絡協議会の業務内容イメージ

【やんばる観光市町村等連絡協議会の設置イメージ】		
【構成】 12市町村の観光担当課・観光協会等の団体 【事務局】 北部広域市町村圏事務組合 【アドバイザー】 観光の専門家(名桜大学等) 【オブザーバー】 国、沖縄県、OCVB、美ら島財団 【賛助会員】 民間観光関連業者等		
【組織の機能】	【内容】	【財源(案)】
広域連携による観光まちづくりの推進	●観光担当課の情報交換 ●広域観光に関する制度研究(DMO等) ●国や県、OCVBとの連携・調整、要請	北部広域 国、県等の補助 制度活用
情報集約・発信	●WEBサイト・SNSの管理・運営 ●観光案内コーナーの管理・運営	収益事業を検証し、段階的に指定管理等による自立的運営を目指す
プロモーション	●旅行社への営業、観光キャラバン ●観光フェア出展等 ●パンフレット、PRグッズ等制作	国、県等の補助 制度活用
マーケティング調査	●ニーズ把握 ⇒ 定期実施 ●WEBサイト、観光案内コーナーを活用した情報収集	国、県等の補助 制度活用

■ やんばる観光市町村等連絡協議会と各エリア、観光協会の役割分担

【やんばる観光市町村等連絡協議会の設置目的】 やんばる地域の多様な資源を活かした観光まちづくりの推進とPR活動を行う 広域連携により各市町村の財政の効率化につなげる		
組織	役割	課題
(仮称)やんばる観光市町村等連絡協議会	・スケールメリットによる財政の効率化やワンストップ (プロモーション活動、情報発信、広域観光事業の要請、マーケティング調査など)	・安定財源の確保 ・営業活動、旅行社との調整能力のある人材確保 ・法人化 ・旅行業登録等の必要性?
各エリアのプロジェクトチーム	・行政の枠を越え、観光客目線での行動範囲に応じた地域資源の組合せによる観光を企画・提案する。 ※現在のエリアの枠組みにとらわれず、新たな連携プロジェクト開発なども柔軟に対応する。	・企画したプロジェクトの商品化や、PR、販促活動等にかかる時間や費用の確保が困難 ・事務局運営をどこが担うか?
観光協会等の団体	・地域内の多様な事業者との連携、多様な資源を活かし、特徴ある観光まちづくりを進める。	・予算、マンパワーの不足 ・行政との役割、位置づけの明確化など ・行政や会員の枠組みの中で観光振興策が限定的

(3)成果と課題

①事業の成果

- ・「やんばる観光連携推進研究会」の継続により 12 市町村の観光行政、観光団体が連携体制についての共通認識や DMO 制度への理解を得る場を設けることができた。
- ・近隣のエリアでの連携プロジェクトを実施したことで、連携の具体的な方向性や連携の必要性、意義に関する意識が高まった。
- ・やんばる観光市町村等連絡協議会を創設し、北部広域市町村圏事務組合を事務局とすることが了解された。

②今後の課題

- ・やんばる観光市町村等連絡協議会の創設が了解されたが、運営財源については市町村の財政負担を伴わない自立的な運営を図ることが求められている。これまでに行った実証事業について、収益の仕組みを検証し、財源を生み出すことが必要である。
- ・国が進める DMO に関する研究、その他支援制度などの活用も検討しながら、財源の確保や収益の仕組みづくりを図っていく必要がある。
- ・やんばる観光市町村等連絡協議会の事務局業務、市町村や観光協会(その他団体)の役割分担、エリアとの関係性を明確にするとともに、国や県、沖縄観光コンベンションビューロー、その他関係団体との協力体制も作っていく必要がある。
- ・現在は連携プロジェクトチームとしてエリアを括っているが、今後はエリアをまたいでの連携も柔軟に検討していく。

1-2. 連携プロジェクトの創出

(1) 目的

沖縄観光は、リピーターが8割を超えており、フリープランや個人旅行の占める割合が増加している。平成24年度から平成25年度の検討では、従来通りのメジャーな観光施設の周遊型観光でなく、やんばる地域の多様な魅力を活かした着地型観光メニューの造成などが提案されてきた。

平成26年度においては、東海岸地域の5市町村(名護市、国頭村、東村、宜野座村、金武町)を先行モデルとして関係団体で東海岸プロジェクトチームを組成し、「大人の民泊」をテーマとしたモニターツアー受入れを実施してきた。これと並行して行われた、平成26年度の研究会では、やんばるの観光連携体制づくりは、すぐに12市町村全体の連携を考えるのではなく、エリア別から進めるという方向性が示され、各エリアでの連携プロジェクトを企画した。

平成27年度は、平成26年度に企画した各エリアの連携プロジェクトを実証事業として行った。

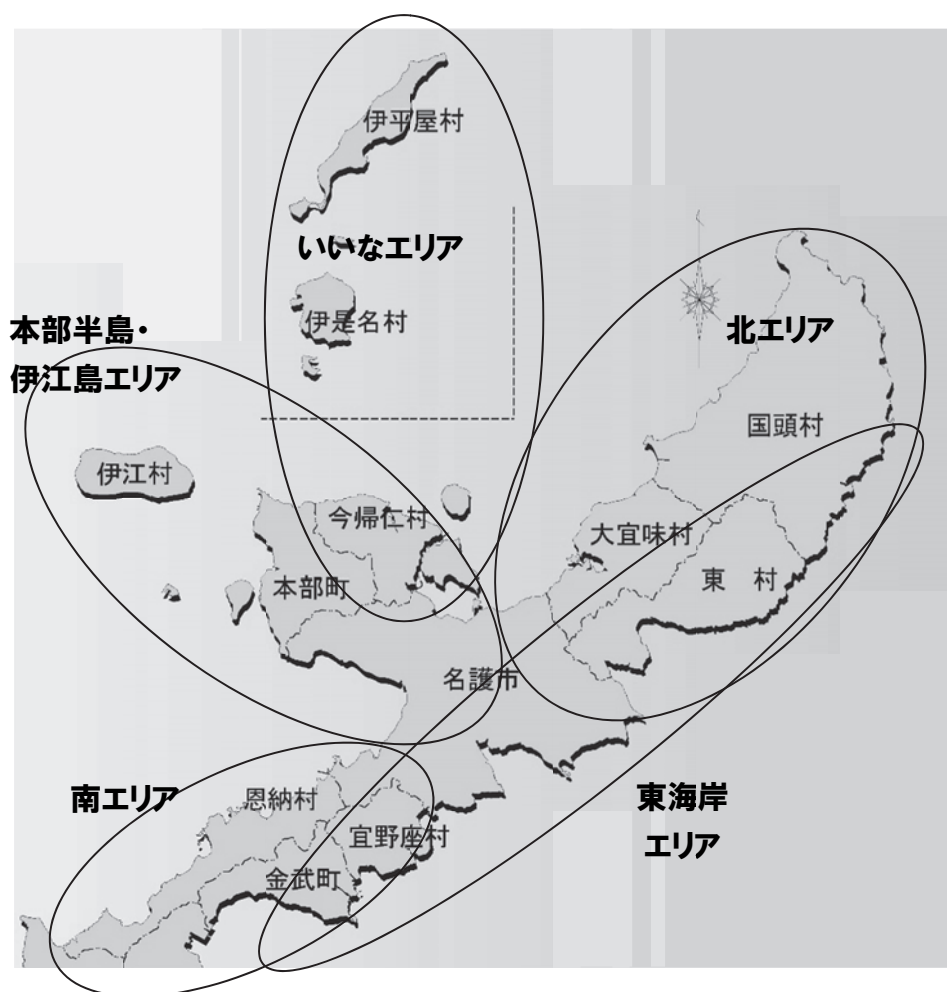
連携プロジェクトの実施は、市町村の枠を越えた連携プロジェクトに取り組むことで、相互理解や協力体制の醸成を図るとともに、連携プロジェクトを実際に継続的な取り組みとしていくことを目的として実施した。

実施に当たっては、平成26年度の研究会で検討した5つのエリアについて、関係団体でプロジェクトチームを作るとともに、代表窓口となる団体を設定し、これを中心に企画会議や関係機関調整、モニターツアーの手配、受入れ実施などを行った。

表 連携プロジェクトの創出

実施目的	・エリア別連携体制の醸成 ・エリア別連携プロジェクトの商品化
実施時期	・各エリアの企画に基づく(※次ページ以降各エリアの実施内容参照)
実施主体	各エリアの連携プロジェクトチーム (各エリアに代表窓口となる団体を設定)
対象	① 本部半島・伊江島エリア(名護市、本部町、今帰仁村、伊江村) ② 南エリア(恩納村、宜野座村、金武町) ③ いいなエリア(伊平屋村、伊是名村、今帰仁村) ④ 東海岸エリア(国頭村、東村、名護市、宜野座村、金武町) ⑤ 北エリア(国頭村、東村、大宜味村) ※PRツール制作のみ
実施内容	① 関係団体による企画会議・相互視察(先進地視察等) ② モニターツアー内容の検討 ③ ツアーパンフレット等PRツール作成 ④ モニター募集／調整 ⑤ 受入れ実施 ⑥ モニターアンケートの分析・課題の抽出

図 エリア区分図



■本部半島・伊江島エリア（本部町、今帰仁村、名護市、伊江村）

PJ 名称：アウトドアスポーツ推進プロジェクト

- ・アウトドアスポーツメーカー等と連携し、サイクリングやカヌー等で周遊を促す。

■南エリア（恩納村、宜野座村、金武町）

PJ 名称：女子スポーツ誘致プロジェクト

- ・スポーツ施設の充実や交通利便性を活かして女子のスポーツキャンプや大会の誘致を図る。

■いいなエリア（伊平屋村、伊是名村、今帰仁村）

PJ 名称：いいな歴史探訪ツアー推進プロジェクト

- ・3村の歴史・文化的な背景を活かし、観光振興及び定住促進につなげる。

■東海岸エリア（国頭村、東村、名護市、宜野座村、金武町）

PJ 名称：東海岸大人の民泊プロジェクト

- ・東海岸の PR や周遊を促すため、教育旅行だけでない大人を対象とした「大人の民泊」をテーマとし、実践的な連携体制と、ツアーの商品化を目的とする。

■北エリア（国頭村、東村、大宜味村）

PJ 名称：(仮)自然と物産の 3 村周遊プロジェクト ※平成 27 年度は PR ツール作成のみ

- ・地域の自然や物産を活かした周遊促進

(2)実施概要

1)本部半島・伊江島エリア 『アウトドアスポーツ推進プロジェクト』

①プロジェクト概要(企画概要)

連携プロジェクト名称		(仮称)本部半島・伊江島アウトドアスポーツ推進プロジェクト
市町村／関連団体名		名護市、本部町、今帰仁村、伊江村
市町村／関連団体名		名護市、今帰仁村、本部町、伊江村、公益財団法人名護市観光協会、一般社団法人今帰仁村観光協会、一般社団法人本部町観光協会、一般社団法人伊江島観光協会
代表窓口／実施体制		一般社団法人本部町観光協会
現状の問題点		・本部半島・伊江島エリアは美ら海水族館を中心に年間407万人が訪れる観光地域である。しかし、レンタカーや周遊型観光バスによる特定の施設周遊型旅行形態が主流であり、滞在時間が限定され、地域での消費や観光産業育成の点からも課題が多い。
取組内容	①連携プロジェクトの目的	・地域の海、山、川など、本部半島、伊江島エリアの各地に点在する自然環境を活かしたアウトドアスポーツのフィールドをつなぐことにより、エリア内での周遊、滞在を促進する新たな観光商品開発で産業を創出する。 ・ツアーは名護、本部、今帰仁、伊江に宿泊。移動手段は自転車などでスイスモビリティ(※)を参考に、本部半島・伊江島を周遊させる(伴走のため、バイク、小型EVなどの検討)。各地区に拠点を設け海のメニュー(カヤック、カヤックフィッシング等)や八重岳、嘉津宇岳、名護岳、伊江島などのトレッキングが楽しめるツアーを創出する。
	②連携プロジェクト(モニターツアー等)概要	・ツアー参加者は那覇空港からバスやレンタカーで移動する。エリア内に交通拠点を設け、そこを拠点に自転車でエリア内を周遊する。 ・観光客は交通拠点から自転車に乗り、各アウトドアスポーツのフィールドまで移動し、本部半島・伊江島を周遊する。 ・アウトドアスポーツの内容は、自転車(ロード、オフロード等)、カヌー、トレッキング、フィッシング、キャンプその他自然環境を活かしたスポーツとする。
	③ターゲット(モニター対象)	アウトドアスポーツ愛好者(国内) モニター対象はアウトドアショップ店長や会員などから募集する。(一般客等への拡散を図る)
	④人数・日数・実施時期	人数:各20名×2回 日数:2泊3日 実施時期:8月～2月
実施の目標		アウトドアスポーツによる新たな観光商品を開発することにより産業、雇用創出を図る。 今回のモニターツアーではコースの設定、受入れ環境の課題の洗い出しを図る。
モニターツアーで検証する内容		・到着からフィールドまでの移動、自転車での移動や輸送などの手順、これに必要なインフラなど受け入れ環境について検証する。 ・ニーズの洗い出し、ツアー商品化の可能性、伴走車、小型モビリティ(自転車に乗れない人用)などの必要性や効果を検証する。
取組後の展開		・本部半島・伊江島にある自然を生かした多様なアウトドアメニューの開発(自転車、カヤック、山登り、釣り、キャンプ、ロッククライミング等) ・モニターツアーで得られた課題の解決を図り、商品化により国内外からの客を呼びこみ通年でアウトドアスポーツのできる地域として、大会誘致等を図る。 ・エリアで連携して本プロジェクトの継続・発展を図り、エリア内の連携体制を確立する。 ・本部半島、伊江島エリアの閑散期対策、雇用対策など観光産業の振興につなげる。

※1 スイス・モビリティとは:人力で移動する<ハイキング><サイクリング><カヌー>などのアクティビティを自由に組み合わせ楽しむ、スイスならではの新しい旅のスタイル。(スイス政府観光局 HP より)

②企画会議の開催経緯

企画会議(1回目)

日時：平成 27 年 8 月 19 日（水）15:00～

場所：本部町役場

内容：①平成 27 年度の企画概要確認

②代表団体について

・一般社団法人本部町観光協会とする

③今後のスケジュールについて



企画会議(2回目)

日時：平成 27 年 9 月 4 日（金）09:30～

場所：名護市 21 世紀の森体育館 第一会議室

内容：①株式会社モンベルの取組みについて

・全国 46 か所のフレンドエリア、

1,000 店以上のフレンドショップと提携

②モニターツアー内容について

・ジャパンエコトラック登録を目指す

・モニター対象、実施方法等

③今後のスケジュールについて



企画会議(3回目)

日時：平成 27 年 11 月 10 日（火）14:00～

場所：北部会館 3 階 会議室

内容：①事例視察報告

②モニターツアープランの確認

③受入れに関する役割分担等

④今後のスケジュール



企画会議(4回目)

日時：平成 27 年 12 月 4 日（金）14:00～

場所：本部町産業支援センター

内容：①モニターツアー行程確認

②ツアー受入れに関する役割分担

③アンケート内容確認

③4町村連携体制

(連携体制図)

- 4市町村が連携体制を築き、代表団体及び総合窓口として一般社団法人本部町観光協会がとりまとめを行った。

図 連携体制図

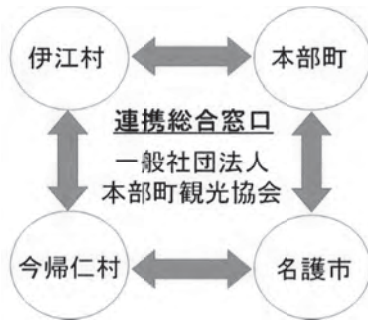


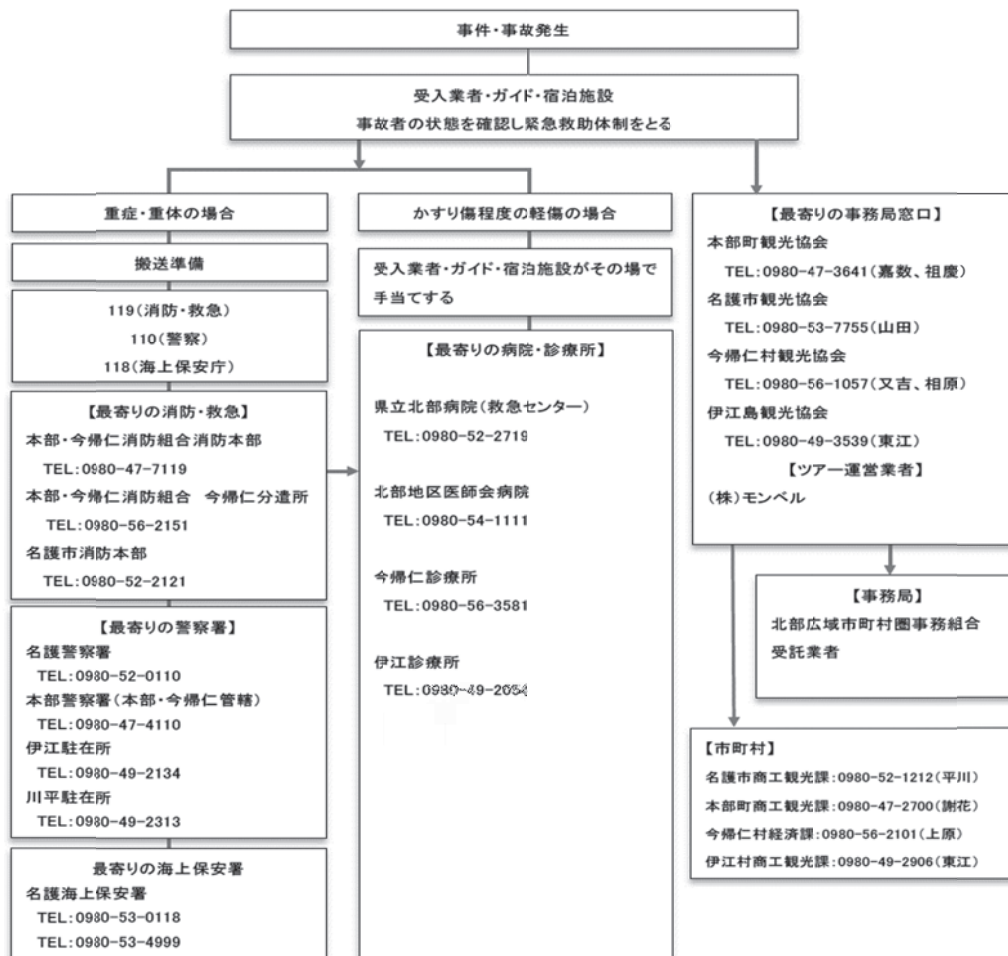
表 連携市町村関連団体名

名護市	名護市 商工観光課 (公財)名護市観光協会
今帰仁村	今帰仁村 経済課 (一社)今帰仁村観光協会
本部町	本部町 商工観光課 (一社)本部町観光協会
伊江村	伊江村 商工観光課 (一社)伊江島観光協会

(緊急連絡体制)

- 広域に跨るため、事故発生時には以下のような緊急連絡体制で連携し、受入れ側の周知を行った。

図表 モニターツアー実施中緊急連絡体制図



保険について ツアーご利用のお客様の万一の事故に備えて、国内旅行傷害保険と旅行特別補償保険に加入しています。保険加入料はツアー料金に含めて事務局で負担しています。内容は下記のとおりです。

1 国内旅行傷害保険
死亡後遺障害保険金 657.4 万円／入院保険金日額(1 日につき)6,000 円／通院保険金日額(1 日につき)4,000 円

2 旅行特別補償保険
死亡後遺障害保険金 1,500 万円／入院見舞金 2 万～20 万円／通院見舞金 1 万～5 万円／携行品損害補償(上限)14 万 7 千円

④先進事例視察

（調査の目的）

やんばる観光連携推進事業において、本部半島・伊江島エリアは、アウトドア・ツーリズムを推進しており、今後、より有効にフィールドを活用してゆくために、地元の関連団体、自治体、住民とのコンセンサスの取り方、自然に負荷をかけない活用方法等、自然環境を活用したアウトドア・ツーリズムの先進地である皆生・大山エリアを調査する。今回は特に鳥取県で行われる「皆生・大山 SEA TO SUMMIT 2015」というアウトドアメーカー、自治体、観光協会、地元 NPO 団体等が協力しておこなうアウトドアイベントを視察することで、イベントの効果や課題についても、現地視察と関係機関へのヒアリングによって実態を把握する。

（視察の実施概要）

- ①期 間：平成 27 年 10 月 16 日（金）～10 月 19 日（月） （3泊4日）
- ②視 察 先：鳥取県「鳥取県・大山隠岐国立公園（モンベル・フレンドエリア 皆生・大山）」
- ③視察メンバー：4 名（各観光協会から 1 名ずつ）
一般社団法人本部町観光協会、一般社団法人今帰仁村観光協会、
公益財団法人名護市観光協会、一般社団法人伊江島観光協会

（調査対象：見学、ヒアリング先）

- ・皆生・大山 SEA TO SUMMIT 2015 コース見学
- ・皆生・大山 SEA TO SUMMIT 2015 環境シンポジウム参加
- ・ヒアリング先：株式会社モンベル、米子市観光協会

（視察日程概要）

1 日目 10 月 16 日（金）

那覇空港～広島空港

広島空港～皆生エリア（レンタカーにて移動） 17：30 頃着予定

2 日目 10 月 17 日（土）

株式会社モンベル ヒアリング

カヤックスタート地点～サイクリングコース等見学

米子市観光協会 事務局次長 ヒアリング

環境シンポジウム、開会式見学

3 日目 10 月 18 日（日）

大会本番 見学（コース各地を移動しながら大会の様子を見学）

大山 サイクリングコース見学（サイクリングによるフィールド活用状況視察）

4 日目 10 月 19 日（月）

皆生～広島空港（レンタカーにて移動）

広島空港～那覇空港

(視察報告 参加者報告書より抜粋)

視察で得られたことから、やんばる地域で参考として活かすべき点など。

公益財団法人 名護市観光協会	・ 地域との共存共栄・・・本大会では行政主導で民間との連携がまだまだ希薄であったため、官民一体となった企画とする必要がある。本企画のポイントは通年イベントであること（閑散期対策に期待）、スポーツを通じて余暇を楽しめるニューリッチ層であること（高単価な消費を期待）、スポーツが主目的であること（長期滞在、環境への配慮を期待）。この企画をしっかりと周知させて理解させることにより多くの協力者を得て、地域のイベントとしていく。 ・ 環境への配慮・・・自然を愉しむエコなスポーツである為、やんばるの未来ある自然を残していくために参加者とともに何が出来るか、何を滞在中にどんな活動が必要か考えて目に見える運動をしていく必要がある（一木一石運動） ・ 国際化・・・インバウンドが急増している現在、今後の国際化していく時代のなかで、本企画は旅先でも外国人も一緒に愉しむことが出来る機会として活かせるのでは？
一般社団法人 本部町観光協会	・ エリアの魅力を十分に発揮でき、見る観光ではなく、体感できる観光を構築することが地元の観光産業育成にも必要である。本視察で、地域観光に県、米子市、大山町など多くの自治体が協力して大会やエリア作りを進め、またそこに企業も一緒に取り組んでいることはエリア観光を考える上で大いに参考にすべきである。 ・ 現在の観光で環境もいっしょに考えることはあまりないが、エコツーリズムではなく、観光の中で環境も一緒に考えることが必要である。この認識も行政も含めて広めていく必要があると考える。 ・ インバウンドについて日本の自然や町並みなどは大変魅力があると思うが、どこでもその取り組みは行なっている。その中でアウトドアスポーツ活かし、選ばれる観光地になれるよう、地域として取り組みが必要である。
一般社団法人 今帰仁村観光協会	・ 「環境を守りつつ、負担をかけずに活用する。」この意識を本部半島、伊江島エリアで共通して持つことがまず一番大切だと感じた。また、大規模に行う大会は大きな予算と多数のボランティア、更には交通規制が必要なため各所に負担がかかり、地域がイベントに疲れてしまう。本当に自然が好きで意識の高い方にターゲットを絞って、小規模ながらPR効果が高い大会ということで、非常に参考になる大会だと感じた。今回参加した全員がこれならできるかも、と肌で感じたのではないかな。自然を活かすという特性上、あまり手を加えず、できる範囲での活用を行っていききたい。
一般社団法人 伊江島観光協会	・ 海と山しかない《やんばる》と言われているが、自然をいかした観光で取り組みができれば、一番の観光地となるであろう。癒しを求め都会から沖縄に。沖縄那覇からやんばるに～という動線を作ることによって、滞在型、やんばるでしかできないものを作り上げることが、これからの観光に必要なと思う。 ・ 各観光協会レベルでできることは限られているが、北部広域4市町村で協力することによって、各地域の特色を出しながら、その地域にあった観光資源を利用して作り上げることも必要である。 ・ それに伴い、リーダーシップを取れる人材の育成や地域の理解、また民間企業の協力を得ることが課題となっていく。 ・ スポーツイベントは、沖縄でも盛んであるが、違った分野のスポーツイベント（Sea To Summit）のようなものも面白いと思うし、その地域の特徴をいかしたアウトドアイベントも、開催できるのではないだろうか・・・。 ・ 伊江島タッチーや湧出で、ロッククライミングなどができれば、今まで沖縄に縁がなかった方でも、（クライマー）足を運ぶのではないだろうか・・・。

(視察写真)



(大会概要)



出典：<http://www.seatosummit.jp/>

イベント情報

開催日時：2015年10月17日（土）・18日（日）【雨天決行】
開催エリア：鳥取県・大山隠岐国立公園（モンペル・フレンドエリア 大山・皆生）
環境シンポジウム：皆生海浜公園（鳥取県米子市皆生温泉4丁目20）[Googleマップへ>>](#)
※環境シンポジウムはどなたでもご参加いただけます（参加無料）

⑤モニターツアー実施概要

第1回目 日程:平成 27 年 12 月 11(金)～13 日(日) 2泊3日

(モニター募集)

- ・ 第1回目のモニターツアーは、アウトドアスポーツ愛好家 20 名を対象とした。
- ・ アウトドアスポーツ専門業者(株式会社モンベル)の協力を得て、モンベル社の抱える会員や提携するショップの店員等向けに募集を行った結果、20 名の定員に対し 1,000 名以上の応募があった。

(モニターツアーの内容)

- ・ モニターツアーの内容は、企画会議により各地のコースを提案し、2泊3日の日程の中で名護市、本部町、今帰仁村、伊江村の各地を巡るコースとして設定した。
- ・ 沖縄に到着してから本エリアまでのアクセスや宿泊、飲食、アクティビティ業者等の手配は、当プロジェクトチームのメンバーで行った。
- ・ モニター20 名を、A グループ(10 人)、B グループ(10 人)に分け、交互にツアーを行った。

■羽地内海カヤックツーリング

■今泊ビーチカヤック

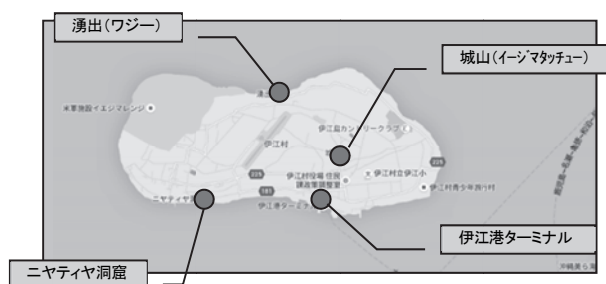
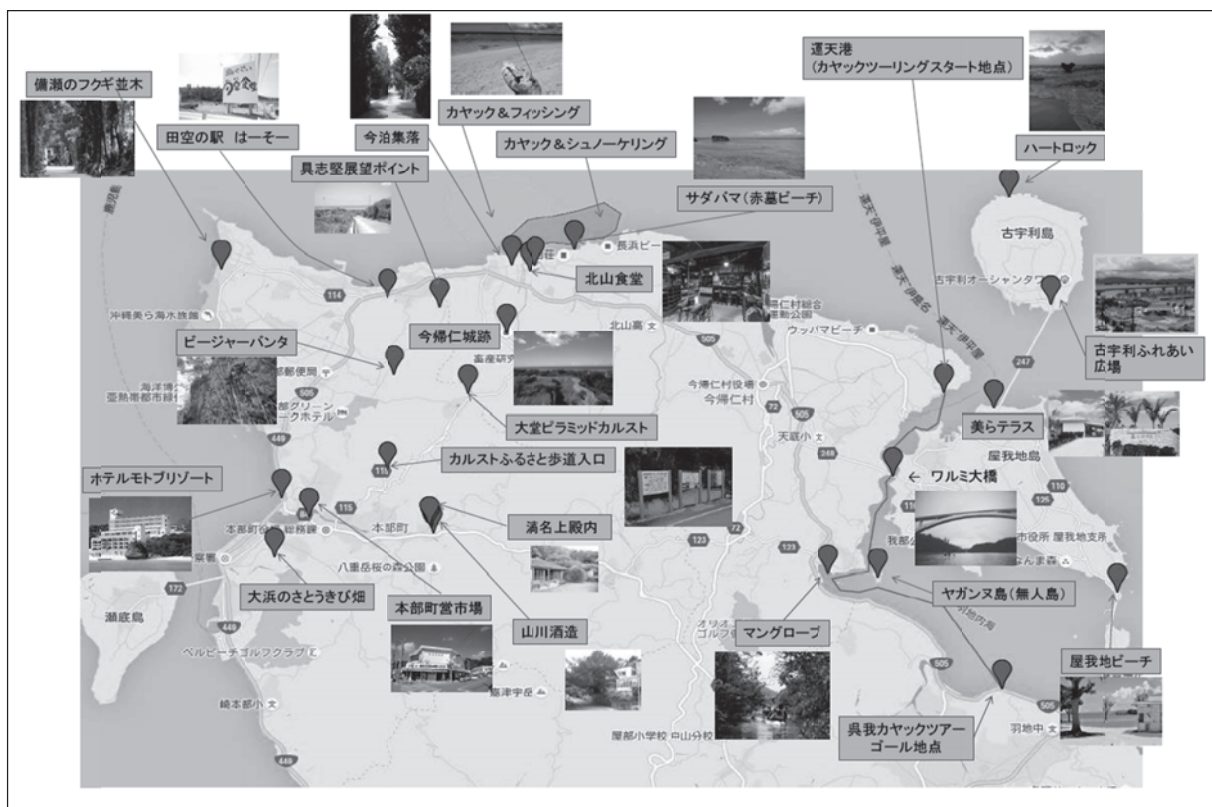
■サイクリング ホテル～今泊

■伊江島サイクリング

(モニターツアーの行程 概要)

1日目 12月11日(金)	2日目 12月12日(土)	3日目 12月13日(月)
各地～那覇空港 (羽田発、伊丹発) 那覇～本部 (やんばる急行バス)	09:00～12:00 A グループ ■サイクリング ホテル～今泊 B グループ ■羽地内海カヤックツーリング	09:00 本部港フェリー発 10:00～12:00 A・B グループ ■伊江島サイクリング
昼食	昼食(今帰仁村内)	昼食(伊江村内)
14:00～17:00 A グループ: ■羽地内海カヤックツーリング B グループ ■今泊ビーチカヤック	14:00～17:00 A グループ: ■今泊ビーチカヤック B グループ ■サイクリング今泊～ホテル	13:00 伊江港フェリー発 本部港～那覇
17:00:ホテル着(本部町内)	17:00:ホテル着(本部町内)	

(モニターツアーMAP)



(ツアー写真)

羽地内海カヤックツーリング



ワルミ海峡(今帰仁村、名護市)



羽地内海(名護市)

今泊ビーチカヤック



今帰仁海岸(今帰仁村)



今帰仁海岸(今帰仁村)

サイクリング今泊～ホテル



備瀬フクギ並木(本部町)



今帰仁村

伊江島サイクリング



島内サイクリング(伊江島)



伊江島タッチュー(伊江島)

第2回目 日程:平成 28 年1月 12 日(火)～14 日(木) 2泊3日

(モニター募集)

- 第2回目のモニターツアーは、アウトドアスポーツ関連のメディア関係者 20 名を対象とした。
- アウトドアスポーツ専門業者(株式会社モンベル)の協力を得て、関係機関に募集を行い、11 社 20 名を選定した。

(参加メディアリスト)

社名	媒体名
小学館	BE-PAL
舵社	カヌーワールド
トドプレス	月刊ソトコト
ワールドフォトプレス	モノマガジン
文藝春秋	Number DO
実業之日本社	ガルヴィ
エイ出版	フィールドライフ
	バイシクルクラブ
	ランドネ
	PEAKS
outdoorjapan	TRAVELER
アールビース	月刊ランナーズ
地球丸	ソルトウォーター
	フライロッダーズ
つり人社	月刊つり人
株式会社モンベル	広報部

(モニターツアーの内容)

- ツアー内容の企画及び受入れ手配は、当プロジェクトチームのメンバーで行った。
- 1日目は、メディアへの PR のため名護市内のオリオンビール工場、屋我地島、今帰仁村古宇利島等視察、本部カルスト登山など観光地への案内を行った。
- 今回のアクティビティは、釣り関係のメディアの方の参加があることから、「カヤックフィッシング」を取り入れ、モニター20 名を、カヤックフィッシンググループ(10 人)、A グループ(5 人)、B グループ(5 人)に分け、交互にツアーを行った。

■オリオンビール工場見学、屋我地島、今帰仁村古宇利島等視察、本部カルスト登山

■カヤックフィッシング

■サイクリング ホテル～今帰仁村、名護市屋我地島

■シットオントップカヤック シュノーケリング or フィッシング

■伊江島サイクリング

(モニターツアーの行程 概要)

1日目 1月12日(火)	2日目 1月13日(水)	3日目 1月14日(木)
各地～那覇空港 (羽田発、伊丹発) 那覇～本部 (やんばる急行バス)	09:00～12:00 カヤックフィッシンググループ ■カヤックフィッシング Aグループ ■サイクリング 今帰仁村、名護市屋我地島 Bグループ ■シットオントップカヤック、シュノーケリング or フィッシング	09:00 本部港フェリー発 10:00～12:00 A・Bグループ ■伊江島サイクリング
昼食	昼食(今帰仁村内)	昼食(伊江村内)
14:00～17:00 名護市内オリオンビール工場  ■屋我地島、今帰仁村古宇利島等 ■本部カルストトレッキング	14:00～17:00 カヤックフィッシンググループ ■カヤックフィッシング Aグループ ■シットオントップカヤック、シュノーケリング or フィッシング Bグループ ■サイクリング 今帰仁村、名護市屋我地島	13:00 伊江港フェリー発 本部港～那覇 那覇空港～各地
17:00:ホテル着(本部町内)	17:00:ホテル着(本部町内)	



本部カルスト登山(本部町)



カヤックフィッシング(本部町)



⑥モニターアンケート結果概要

第1回目 アウトドア愛好家等

・（調査概要）

モニターアンケート調査は、今回実施したモニターツアーについて、参加者から評価をいただき、ツアーの商品化に向け今後の取組みの参考とするために評価点や改善点の抽出を目的とするものである。

・（調査方法）

調査方法 : ツアー参加者に直接調査票を配布し、FAX、E-Mail、郵送で回収

調査対象 : モニターツアー参加者 20 人（回収 20 サンプル）

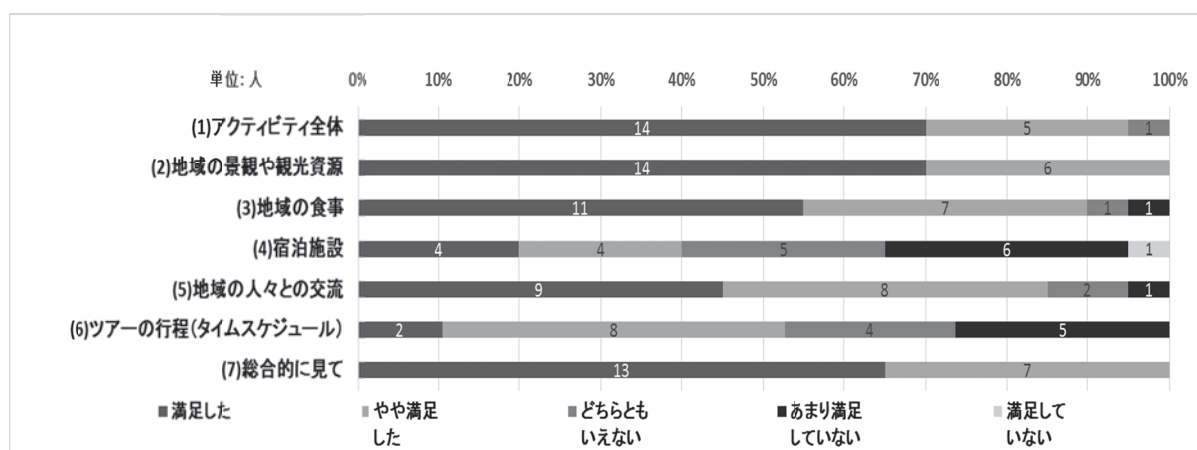
調査期間 : 平成 27 年 12 月 11 日（ツアー開始日）～12 月 25 日（回収期日）

・（調査結果） 抜粋

Q: ツアー全体についての満足度

ツアーの満足度について、総合的にはほぼ全員が「満足した」、「やや満足した」と答えている。

項目別にみると、アクティビティや地域の資源については、満足度が高いが、宿泊施設、ツアーの行程などで満足していない状況が見られる。



Q: 力を入れるべきサービスや改善点 記述回答（抜粋）

地域資源の高い魅力を、安心安全、快適に体感できるよう、インフラの整備に加え、ツアー行程の工夫、スポーツ参加後の風呂や食事、宿泊施設などへのきめ細かな対応などソフト的なサービスの充実を求める声が多くなっている。

- ・ 道路標識（観光案内、道しるべ）、誘導できるコース設定と標識整備、サイクリングのエイドステーション、観光スポットへのバイクラックの設置が必要。
- ・ 自然を楽しむアウトドアアクティビティをした後のサービスを充実すべきと思います。（着替え、シャワー、入浴、参加者の荷物の運搬、等々）
- ・ 同じ行程で売り出していくよりその人の好みや予定に合わせて自由に組み合わせられる方が良いと思います。
- ・ 本部半島、伊江島ともにサイクリング途中に立ち寄れるスポットの整備パンク等のトラブルに対する備え。（修理キット・空気いれを設置）

- ・海空大地は天の恵みです。そして沖縄固有の人情味がベースに有ると思います。先ずインフラの整備が必要だと思います。標識道路の舗装専用レーン、トイレ、メンテナンス地点の確保の為にルール作り等です。
- ・サイクリングの場合はモデルプラン。食は沖縄らしい物にする。ホテルのバイキングは2日間同じだった。宿泊施設に大浴場を設置するとか、日帰り入浴施設を設ける。アウトドアスポーツ関係の雑誌を施設に置く。
- ・ホテルの食事は地域の特産品や地元の料理がいい。カヤック、ツーリングの途中でトイレ休憩。カヤックやサイクリングは半日、1日の選択制にする（初心者は1日中同じ事をした方が上達すると思う。）
- ・サイクリング時、道路を横断するのに不慣れな初心者向けに自転車専用道路があったら良かったと思う。
- ・時間的な余裕を少し持たせる。例）カヤックで上陸した際コーヒータ임을設ける。自転車では食事やショッピングが出来る場所で自由時間を作る。
- ・宿泊したホテルの環境整備。ツアーガイドの島さんにいただいたヤドカリと写真のデータ、北山食堂さんにいただいたゴーヤといったお土産がとても嬉しかったです。女はそういうのにすごく弱いんです。
- ・【名称】根本的に「本部半島・伊江島エリア」と言う名称が、記憶に残りにくいです。
- ・【フィールドとしてのアピール】1年を通じてアクティビティを楽しめるスポット、特定のユーザーに的を絞って「本部半島・伊江島エリア」を発信して欲しいです。
- ・【全体スケジュール】一般的な「沖縄旅行」を楽しむのならば、ハードな行程だと思います。
- ・【情報発信】未経験者が気軽に申し込めるように、情報を多く発信して欲しいです。
- ・【女性客】女性客が満足できる内容が良いと思います。
- ・【食事】全体的に量が多すぎました。量や品数を減らして料金が抑えられるなら減らしてほしいです。
- ・【避難経路】移動中に海拔表示が目につきましたが、避難経路は記憶に残っていません。
- ・サイクリングコース途中に「道の駅」的なものがあれば良い。トイレ休憩が気軽にでき、お土産が見られる場所がもっと欲しい。きれいな海なのに、海岸沿いにゴミや吸殻が落ちているのはとても残念。貸し自転車の中にスポーツバイクがあったほうが良い。全体的には時間に余裕が欲しい。
- ・熱帯の地方なので早朝、ナイトをもう少し有効に使うと一日お腹いっぱい楽しめるかと、お昼のための休憩を取れる様なお店。オプション式にしてレベルを合わせたツアーを展開。
- ・アクティビティへの参加はお客様の気分やコンディションに応じて変更できるものも必要だと思う。
- ・難しい課題だと思いますが空港や那覇市内からの公共の乗り物でのアクセスが良くないのでバスの路線が充実していると行きやすくなると思います。
- ・レンタサイクル、バイクの種類、観光地でのバイクラック設置、空気入れ、タイヤチューブなど簡単な修理キット。バイク目線の表示、目的までの距離案内歴史や施設の説明文。
- ・伊江島はサイクリングコースがあればまわってみたいと思いました。小さい島だからこそたくさんのお名所を1度に行けると思うので。クロスバイク、ロードバイクのレンタルが充実したらうれしいです。
- ・ツアー行程の時間がわかりにくかったので、その時その時の的確な指示があれば良かったと思います。アクティビティで疲れた後のお風呂と食事もしっかり充実していると満足度が上がります。
- ・天候が悪く最悪中止になったときも楽しめるプランが控えてあるとなお安心してツアーに申し込める。
- ・ホテルの周りの環境整備（草刈、ベランダの掃除ごみ拾い）や、ビーチでもごみがあったりしたので整備し、ごみがあると士気が下るので対策が必要です。

※アンケート結果の詳細は、別冊「資料編」に掲載。

第2回目 アウトドア関係のメディア従事者

- (調査概要)

モニターアンケート調査は、今回実施したモニターツアーについて、参加者から評価をいただき、ツアーの商品化に向け今後の取組みの参考とするために評価点や改善点の抽出を目的とするものである。

- (調査方法)

調査方法 : ツアー参加者に直接調査票を配布し、FAX、E-Mail、郵送で回収

調査対象 : モニターツアー参加者 20 人 (回収 20 サンプル)

調査期間 : 平成 27 年1月 12 日 (ツアー開始日) ~ 1月 29 日 (回収期日)

- (調査結果) 抜粋

Q: ターゲットとなりそうな客層

メディア従事者の視点から、本エリアでのツアーのターゲットになりそうな客層を聞いてみたところ、幅広い層への回答があった。ただし、各層のニーズに合わせたコース設定やアプローチ方法が必要ということが把握できる。

- 30 代女性 女性の一人旅でも二人旅でも、女子旅にちょうどいい自然だった。
- アウトドアツアーだったので、アウトドアで括ると、釣り、サイクリング、キャンプ登山、(シュノーケリングは体験してないのですがおそらく潜る人達)
- 観光協会の方は、「アウトドアフィールドの使い方が分かる人に来てほしい」とおっしゃっていましたが、まさにその通りだと思います。ルール、マナーが守れて、自然を大切に人が訪れ、このエリアの良さを体感することによって、彼らが伝道師となり口コミ (SNS など) で PR してくれる。
- ファミリー層、小中学生の子供のいる家庭。自然体験、農業体験などを提案。少々ハードなアクティビティならばフィットネスジムなどの会員など。旧家のような民宿があり魅力的、そのような雰囲気にもノスタルジーを感じられる年代のご夫婦。
- 20 代~50 代、沖縄に一度は来たことがある方。地方の暮らしや文化に関心がある、都市圏の 20 代~30 代の女性。都市圏で今、新たに現れている地方移住に関心がある層。
- アクティビティに興味があり沖縄のメジャーどころよりもやんばるのエリアに来たいという知的好奇心旺盛な方。具体的には 20~40 代のカップル、夫婦、友人グループに旅好き。
- 女性同士、友人同士、カップル、夫婦など、スポーツ好きというよりはモニターツアーはスポーツ寄りのアクティビティという印象だったので、あとは沖縄のリピーターには魅力的だと思います。
- 体を動かしたりアウトドアが好きな人
- キャンプ、アウトドア中級者
- 若い世代 20~30 代前半と 30~50 代と年代によってアプローチの仕方を変えた方がいいと思う。
- 20 代から 30 代の独身で、のんびり南の島で過ごしたい方
- 10 代 20 代は、沖縄の海にのみ目が向きがちでダングン的なので、もう少しお金、時間、心に余裕のある層がターゲットに則したエリアだと感じました。30~40 代の独身 OL やカップル、子供がいない若夫婦。65~70 代の定年後の世代 (若いころはアクティブにアウトドアを楽しんでいた)。このあたりの層に向けて、ゆ

ったりとアウトドアを楽しめるようなエリアとしてアプローチしていくと有効的だと感じました。

- ・ インバウンド
- ・ アウトドアに特化した若者（学生含む）
- ・ 那覇周辺は行ったことのある沖縄中高年リピーター
- ・ ランナー、サイクリスト
- ・ 生活に余裕があってアウトドアに興味がある 20～40 代がコア。友人同士、カップル、夫婦、ファミリーなど。
- ・ アクティブな夫婦、収入の多い家族層、定年後の高齢層

※若者＝刺激を求めるでは、南部と同じになってしまうので、差別化したほうがいいと思いました。

- ・ 釣り愛好者は、そこで魚が釣れればおのずと来るようになると思う。関東周辺でもカヤックフィッシングの
人気が上がっていて、30～40 代を中心に愛好者が増えている。カヤックを運ぶのは、大変なので、装備の整
ったレンタルカヤックがあれば、釣り客が来るのではないかと思う。
- ・ 20 代後半～40 代のアウトドア愛好家

最近地方起業が流行っているので……20 代後半～30 代の起業家（一回来て本部を体験してもらう）

Q: 力を入れるべきサービスや改善点 記述回答（抜粋）

下記の回答より、沖縄の中でもこのエリアでしか味わえないところを前面に出していくことが重要とい
うことが把握できる。特に、食に関しては、女性にとっては重要度が高く、満足度に大きく関係すると考
えられる。

- ・ 女性をターゲットにするなら、もっと食に力を入れるべき。沖縄料理をもっと宿で出すべきだし、昼食も量
を多くするより、ポピュラーな沖縄料理を食いたいと思う人が多いと思います。本部の有名な沖縄そば食べ
たかったです。
- ・ 雨などの天候が悪い日の過ごし方
今回の行程はそれぞれのアクティビティが短く感じたので、商品化する場合はゆとりがあるほうが良い気が。
・ 申し訳ないのですが食事がまいちでした。時間や予算の都合があるとは思いますがもう少しシンプルに
しても良いのでは。（北山食堂が美味しかったですが観光向けという感じがして、ある意味物足りなかった。）
・ ホテルのツアーデスクのように画一的なものではなく、観光協会内などにコンシェルジュデスクを設けて、
客層や好みに合わせてアウトドアアクティビティのオーダーメイドに応えられる体制が組めるといいと思い
ます。そのコンシェルジュ機能は、ネットを活用して行うことも可能です。
・ 沖縄南部に泊まって本部半島へは日帰りツアーというのでは、このエリアを堪能できません。本部の良さを
実感してもらうには、本部に連泊してもらうことが重要。宿泊施設と連携して連泊割引を設定したり、アウ
トドアアクティビティを組み込んだ 2 泊 3 日や 3 泊 4 日のパッケージツアーを作ってはいかがでしょうか。
・ 一方、アクティブに遊ぶだけでなく、綺麗な海を見ながらのんびり休息する。そんな時間が得られるのも、
このエリアに連泊してこそ。「何もしない、海だけ見て過ごす」ことの楽しみを前面に打ち出してもいいで
すね。
・ たまたまかもしれませんが宿泊したホテルの古さが気になりました。ツアー道中にも似たような宿を何箇所
か見かけました。
・ 何も新しく豪華なものが良いとは限りません。沖縄は日本の中でのアジアの入り口のような感じがあります、

異文化に触れ合える雰囲気を大事にできる空間を期待します。

- ほかの地域（日本全国のほかの地域）ではできないことの魅力として、アウトドアスポーツのアクティビティの充実。そのためのレンタル品（自転車やカヌーなど）を、ある程度のクオリティを持つ、専門のメーカーのきちんとしたものを用意する。その分、価格は上がると思いますが、ツアーの紹介の内容に、高品質のレンタル品を用意しているときちゃんとアピールし、説明をすれば、受け入れられると思います。アウトドアが好きな人は、そのあたりは敏感に反応します。そのうえで、地元の食事や、文化、暮らしにふれられる機会も入れていく。地元の人の話を聞く機会があると、満足感があがると思います。
- 滞在、宿泊を希望されているとのことだったのでやはり宿泊施設の充実が大切かと思いました。沖縄に来る人は例えば、「星のや」みたいな分かり易いところかもしくはアクティビティ好きな人は民宿が好きな人も多いと思います。それとやはり現地の人・文化との交流をもっと増やして欲しい。
- 食にはもっと力を入れてもいいかと思いました。沖縄のどこでも食べれる食事ではないものが欲しく、旅において食はかなり重要です。沖縄定食のようなものよりも温かく美味しい地元の人が行きつけの沖縄そば屋の方が満足度が高い。黒糖、伊江牛などがあるのもったいない。また自転車はルートの整備駐輪の問題をクリアにしたほうが良いと思う。しまなみ街道がサイクリストに優しいのは、トイレも多くルートにブルーラインが引かれ、道に迷う心配がないところが大きい。路肩の崩れなども多くもう少し走りやすいところがあっても良かった。また未舗装路も多かったのでクロスバイクでもいい気が。
- 今回のモニターツアーとても楽しめました。ありがとうございました。自転車を安心して止められる場所が必要だと思いました。
- 本部地方でしか見られない、感じられない、ことを徹底的にガイド、PRしていくべきと感じた。海の生物や山の植物、動物など。
- 私は今回感じたのは私達（40代）は色々な観光地もそうですがいわゆるみんなが見ている沖縄は知ってるわけで、もっと地元の方達が普通に行っている魚屋さんやスーパー商店街など沖縄のそのまを見たいと思いました。スナックの話を聞きましたがもっとアピールしてもいいと思います。東京の雑誌でブルータスという雑誌が出したスナック特集号は大人気だったみたて、こちらでは少しブームがきています。
- 今回の内容を商品化するのであれば、食や宿泊施設にも力を入れるべきだと思います。今回のツアーではあまり沖縄の食を楽しめませんでしたし、宿泊もただ寝るだけの場所となってしまいました。
- 旅行は非日常を楽しむものですから、トータルでのプラン作りが必要になります。また、今回は生憎の天気となってしまいましたので、雨天の際の別プランが必要かと思います。雨の中外でのアクティビティに出ても、満足度は下がるだけだと思います。
- 実施時期）春夏秋冬、四季折々のツアー内容へ改善した方が良くはないかと感じました。
- 例えば、冬は文化的なアウトドア、夏は海・山メインのアクティブアウトドア etc..
- 宿）沖縄らしさを体験できる宿へ改善が必要かと感じました。宿泊する場所もせっかくなので地域の人と触れ合える「民泊」と言う選択。個人（プライベート）の時間を過ごしたいという人もいるので、ゆったりできる宿泊施設という選択ができるようになっているとより魅力的。

※正直今回宿泊した宿は、どこでもありそうなパツとしない宿と感じてしまいました。

- ランニングならば、おすすめエリアに距離表示があるとか、サイクリングならば、点在する立ち寄りスポットにバイクラックを設置するとか、商品ターゲットが「あったらうれしい」ものを意識的に取り上げることが重要だと思う。「歓迎されている」感情は絶対にリピーターに繋がるはず。
あとは宿泊の自由な選択が不足している気がする（単なる情報不足かもしれませんが）。
- 那覇があれば人が集まるのは、空港からのロケーションが一番ですが、宿泊の選択幅が広いのと情報が多いこともあると思う。
- サイクリングコースの一部をランニングコースとして、ランニングで観光名所を周ってもらうツアーがあれば面白そう。サイクリング、カヤックと比べ地元にお金が落ちないので何らかの仕掛けは必要だが、参加者にとっては、参加しやすいのでは。
- この地域ならではの資源を旅行者に提供していく必要があると感じます。本土と同じもの（食やホスピタリティなど）だとここに旅で訪れる意味が薄れてしまいます。もちろん食については好き嫌いがあるので本土でも食べられるものを用意しておく必要が出てきそうですが。例えば宿に名護・本部・今帰仁エリアの「食マップ」のようなパンフレットを配っていてここにいけば「〇〇〇」という名産が食べられるとかがあるといいかもしれない。またそれぞれの地域の「一押し」となるものが全然知られてないので繰り返しアピールする必要があるかも知れません。（伊江牛、本マグロ養殖、今帰仁城の世界遺産などこのツアーではじめて知りました。）美ら海水族館を見に来るだけで戻ってしまうのはもったいない。
- 時間配分
- 食事全般（地元の物たくさん食べたいです。）
- 地元の方や地元の自然（マングローブ・やんばるの森）とのふれあい
- 休憩所や案内版
- カヤックフィッシングの場合＝カヤックフィッシング用の機装、レンタル品の充実。風などによる状況に応じて下ろし場所を変える。分かりやすい料金設定。ポイント図の作成。カヤックフィッシングガイドの育成。
- サイクリングの場合＝今回、自分は伊江島でのママチャリサイクリングしかできなかったが、レンタルスポーツサイクリング車の充実。ガイドの育成。余裕のある時間設定。
- トレッキングの場合＝充実したコース設定。歩きの指導ができて、植物や森の説明できるガイドの育成。
食文化講義＝実際に野山で採取した植物を使った料理体験。余裕のある時間設定。
- 今回体験したアクティビティがカヤックフィッシングだったので、このことについて書かさせていただきます。まず、カヤックの装備の充実。ロッドホルダー、貸し出しの防水バック、ランディングネット（これは飛行機で持参しにくい）、シーアンカー、背もたれなど。魚探がないので、どの場所でサオをだすか、かなり迷う。そのため、有望ポイント周りにはブイを浮かべて係留できるようにするとよいと思う。もしくはポイント図を配るなど。